

# 益山貴司

劇団子供鉦人主宰／脚本／演出家

## +

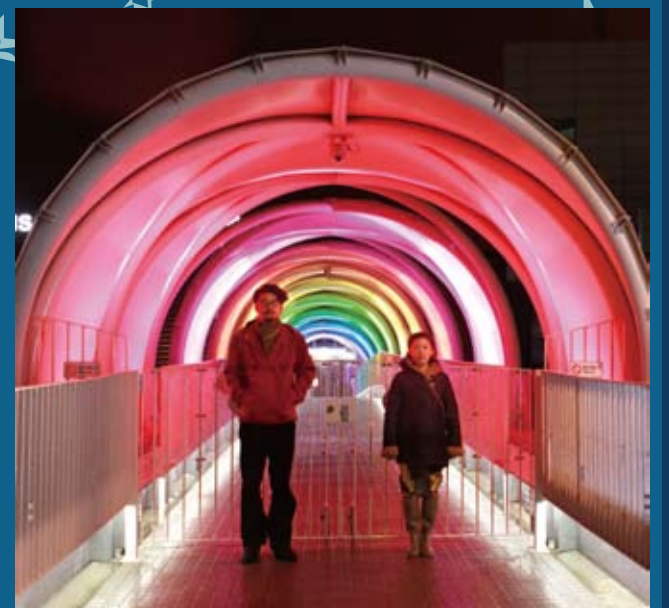
スティールパン奏者／「真夜中の虹」音楽担当

# トンチ

## ドライブ対談

### 『虹の向こうはなんなんやろ』

3月某日某所。しっかりと降る雨の中、ドライブ対談はスタートしました。ドライバーはトンチ。車を運転しながら話すのが好きだと言う彼女からの希望でドライブ対談となった。立体駐車場を恐る恐る降りる姿に一抹の不安を抱えながらも、運転しだすとテクニックもおしゃべりも絶好調。目指す行き先は「虹の向こう」。



取材／写真 さくらの

### 『トンチ、トリニダード・トバゴに行く』

益山 初めてトリニダード・トバゴに行ったのはいつごろ？

トンチ 19歳。初トリニダード。ほんで、右も左もわからへんくて、ホテルのフロントのお姉さんにジェスチャーでスティールドラムやりたいって言って。

益山 やりたいって(笑)。ホテルで(笑)。

トンチ アイム ルッキング フォー グッドチーム。

益山 ユーセイド？

トンチ アイセイド！ ジェスチャー交えて、しゃべられへんかったから。そしたら、こまっすぐ行って左手にインペーダーズっていうめちゃめちゃ最高なスティールバンドあるからそこ行けって言われて。でも門閉まってん。ほいでな、打ちひしがれてたらな、西洋人のやたら品のいいおっちゃんにしゃべりかけられて。うちが小学生に思えたみたい。小6ぐらいに。小6ぐらいのやつが1人でさまよってると思われて声かけられて。「どうしたんや」と。「ここ、クローズ、でもここで演奏したい」って言ったのに対して、「でもここ夕方まで開かへんよ」って言われて。「ほかに何か

ムジンの後を付けると、なんと到着したのは最高のレインボーブリッジ撮影ポイント！さっさと写真を撮って立ち去ろうとしたが、絶妙に画角がよくない。リムジンが停まってるポイントだけが、ただ一つの最高のフォトスポットだったの！我々は撮影の順番待ちをすることになった。

トンチ じゃあさっきの話の続きでも、リムジン見ながらしてこっか。髪の毛ブレードにしてから、ちょうどいい時間や思ってた戻ってんや。しゃべられへんに通訳をゲットしたわけです、私。でもそのおっちゃんもジェスチャーでしゃべってるから(笑)。でも何となく気持ち伝えて、「わかったわかった、俺が言った「みたいな。ちなみにそのおっちゃんは豪華客船の船長さんやってん。で、トリニダードに停泊してる最中やっつて、ぶらぶらしてたらうちを見つけたらしい。引きが強かったわけ。

益山 リムジンとて、船長とて(笑)。

トンチ ほんで、戻ったんや。そしたらまたま、『ドラゴンボール』のポボわかる？

益山 ああ、はい、黒人の？

トンチ そう。ポボにそっくりな人がドアの鍵開けようとして、うわあ、ポボやと思つて。ほんでしゃべりかけたら、何とそん人がそのチームのキャプテンやってんや。ほんでそのポボに、ルディーっていう名前やってんけど、「お前、小学生か？」って言われて。

益山 また(笑)。

トンチ 「12歳ぐらいか？」って言われて、「違う」つつついろいろ説明して。そしたら、「2週間ぐらい毎日教えたる」って言って。個人レッスン。1人で小学生みたいやから不慣れに思つたんやろな。「毎日1日4時間ぐらい教えたい」って言って。「チームに入るのほうまくなら無理やけど、基本とか全部教えたいから」って。

益山 すこいな。それはスティールパン始めてどのぐらいなん？

トンチ 2、3ヶ月ぐらい。

益山 (笑)。すごい行動力やな。

トンチ それで次の日から習ってんけど、トリニダード人めちゃめちゃルーズなん知らんかってさ。12時に行ったんやんか、ほんで3時間待った。

益山 (笑)。

トンチ 隣の店でフライドポテトと何か飲みながら待つとつたら、3時間たつても見えへんから、もう時間間違えたと思つて不安になってたら、「ごめん、待った？」って来て、来てんすこい陽気に。そこから3時間ぐらいいばって教えてくれて、それが毎日続いてんや。

益山 毎日3時間遅刻？

益山 (笑)。

トンチ そんな、したいやん、19ぐらいって。ほんでな、ダウンタウンの町のほうまで連れて行ってもらって、歩いて行ける距離やつたら。ほんで、美容院に連れて行ってもらって。ちょうど昼ぐらいやつたら、それが。3、4時間ぐらひかけて髪の毛ブレードにしてもらつてん。

益山 (笑)。

トンチ あれ、これ、間違えた？あ、レインボーブリッジって書いてある。

益山 イエー。

トンチ イエー。

### 『リムジンパニック』

『虹の向こう』とはレインボーブリッジの事だった。滞り無くレイ

トンチ それが、たまにうちが30分遅刻するやん、そしたら来てんねん、そのときだけ。

益山 (笑)。

トンチ ほんで、めっちゃ仲よくなつてんやんか。すっごいよくしてくれて、最後の日に、ほんまにめっちゃ音色がいいスティールドラムを現地価格で買うことに成功して、スティックもくれて。そのときに、「向こうでもちゃんと練習して上手になったらインペーダーズに入れてあげるから、またおいで」って言ってくれた。ほんで帰国してから、そこぐらひから、曲を初めて作れるようになってん。スティールドラムで歌の曲。そこからライブを結構するようになってん。

益山 最初の手ほどきが、ポボ、ルディーでよかったね。一流の人で。

トンチ その人の演奏がほかのスティールパンプレイヤーと違うくてめっちゃくちゃ美しい音やねん。粒とかも。帰国しまして、2年間、こちでも村治先生に教えてもらつたり、ライブするようになって、卒業したらまたトリニダード。今度は1年住みに。でも全然連絡取ってへんかって、当時インターネットとかもそんなに普及してへんし、向こうの電話番号しか知らんくて。ほんで家電に電話してん。そしたら出てん！ルディーが。「また来たで」って言って。ほんでまたインペーダーズ行つて、そうしたら合格して。

益山 おお、すごいやん。

トンチ ほんでみんなに紹介してもらつて、1年間そこで活動をできることに。英語学校入りながら、チームでも毎日のようにすっつと練習して。

益山 チームの人たちは毎日練習してんの。

トンチ 基本毎日練習してんねんけど、トリニダードってカーニバルっていうものがあるって、1年に1回、3日間連続で。それに向けて3カ月前から、そのときは毎日1日7時間ぐらひ、日曜日もなくて、子供から会社勤めする人までみんなやんねん。それが、10分の曲を耳コピだけで3ヶ月かけて練習すんの。ちよつとずつ、ちよつとずつ。

益山 すこいな。

トンチ でもそれが舞台と似てるんじゃない。

益山 まあね。でも10分の曲を3ヶ月やろ。僕らは2時間の芝居を1ヶ月とかやから、すごい密度が違うね。

トンチ 1年間ずつと6、7時間毎日練習した、そのときは。

益山 (笑)。

トンチ いろんな曲があつて、3ヶ月前からのカーニバルは同じ曲を、ああ、今日でやっと2分ぐらひ弾けるようになったね、みたいな。ちよつとずつ。で、向こうの人シャイやから、3ヶ月ほとんど誰にもしゃべりかけてもらわれへんくて。

トンチ もうそれは態度であらわすしかないと思つて、毎日誰よりも早く行って、ひたすら教えてもらいまくつたら、何日か休んだんとかが、「ちよつとこのフレーズ教えてくれへん？」とか言つてしゃべりかけてくれるようになって、3ヶ月たつてから爆発的に仲よくなつて。ほんで1年間でみたいな。すこいよくしてもらつて。ほんで1年間でみんなカーニバルも出場して。で、1年たつて帰国したんやよね。うちはそうやってピアノから流れてスティールドラム始めてそのきつかけで曲ができるようになって、ざっくり言ったら今に至るみたいない感じや。ボスくん(益山のこと)は？

益山 俺の前に。リムジンあれへんから、行こか、リムジンコーナーに。

するとなんとまたもや別のリムジンが登場！スルリと華麗にポイントに入って来たのである。順番待ちは明らかに我々の方が先である。しかし、リムジンの前には屈するしかないのであった。かくして、ようやく我々は最高の場所で写真を撮ることができた。



トンチ (写真を見て) めっちゃおもろいやん(笑)。何してんねんやろ(笑)。レインボーブリッジで何してんねん。  
 益山 見して見して。ああいいやんいいやん。何やねんこいつら。  
 トンチ (笑) これ、かなり面白い。  
 益山 関西ウォーカー感すごいわ(笑)  
 トンチ これは面白いことになってきたよ。それはいい写真やね。  
 益山 これ、レインボーブリッジ渡れんの。  
 トンチ 渡ってみようか、せっかくやし。  
 益山 渡りましようよ、ちよっと。  
 (スマホのナビを触ろうとして)  
 トンチ すいません、つまようじが、うちの靴取ってもらっていい？  
 益山 出た。システムシステム。トンチシステムが必要や。  
 トンチ 全然、スマートフォン便利ちゃうから。バックボタンが外れてるわけですよ。この穴にぶすって刺さないと、  
 益山 つまようじが常に入ってるんですか。  
 トンチ それをつんつんするものが、どうも、こちらです。竹串ちゃんです。



これがトンチシステムだ!!!

トンチシステムによりようやくナビが作動。  
 益山 (笑)  
 トンチ じゃあレインボーブリッジ渡れそうなので、渡ってみたいと思いますよ。  
 益山 お願ひします。興奮してハザードたきつ放し、あ、竹串が落ちた。すいません。私の命綱。あとで探さないとナビが作動しないのでおうちに帰ることができませんよ。

益山 でこの間の10周年の『重力の光』で、ゲストに出てもらって、  
 トンチ あのときは風邪引いて申し訳なかった。  
 益山 あ、そうなん？  
 トンチ あんとき8度5分ぐらいあってん。インフルエンザじゃなかったんけど。でも声もがらがらやし、熱に浮かされてわけわからなくて、ほんまにあかんなって思ってたつちや反省したわ。すごい反省した。  
 益山 『重力の光』のときに、今回の『真夜中の虹』っていう作品の初期イメージがあって、それは高速道路のそばに住む人たちの話を書くことと思って。僕自身も高速道路の横が実家でそこで育ったので。そんときに、夜寝ると、遠くのほうからぼろんぼろんみたいな音が聞こえてくるねんか。何の音か今でもよくわからへんねんけど、それは多分遠くで車が走ってる音とか、不思議な音が聞こえてきてんけど。その音とステイールパンの音がちよっと似てるなっていうふう思ったのね。  
 トンチ なんかちよっとステイールパンってトロボカルなイメージ持たれがちなやけど、もちろんそうやねんけど、結構夜の夢っぽい音でもあるなっていつも思う。ちよっと儂いとか。  
 益山 遠くから聞こえてくるような感じがすごいする。  
 トンチ 夢っぽいなって自分も思うときがある。  
 益山 あぶくの音みたいやしね、遠くではこぼこって鳴ってる。で、そのイメージと自分が考えてる今回の芝居の高速道路っていうところがリンクして、トンチに頼もうっていうふうに思ってた。だから劇場で確か話したと思う、すぐ(笑)。  
 トンチ おもしろそうやなと思った。うちずっと前から映画音楽とか、物語の音楽を作りたいっていうのは昔からすごいあったからいいきつかけやなと思って。やったことはないけどずっとやってみたいことの1つやったから。  
 益山 よかった、タイミングとしては。  
 トンチ すごいタイミングやなって思う。  
 益山 今日の目的地であるレインボーブリッジはオーバーし

益山 レインボーブリッジって渡ったら向こう側何なんやろ。  
 トンチ 何なんやろな。渡ってみよか、とりあえず。  
 益山 渡ったら東京？当たり前か。渡ったら何なんやろ。

『演劇はじめて物語』

トンチ ボスくんの話聞いたほうがええんちゃう。  
 益山 あたしは子供のときからごっこ遊びが好きやったから例えばテレビの役者のまねみたいなの。兄弟で。  
 トンチ あ、兄弟も多いんやもんね。  
 益山 そう。  
 トンチ みんなでそれを、  
 益山 でももちろんそのまんまのまねはできひんくて、子供出力になるやん(笑)。  
 トンチ 自分の中であんまり演劇って、なるきつかけがわからへんくて。  
 益山 俺の場合は、脚本書くっていう、物語を作るっていうのは、小学校4年生の頃に小説みたいなん書いて。  
 トンチ あ、もうすでに？  
 益山 そう。それが1番自分が覚えている最古の物語かな。  
 トンチ その物語の内容ものすごい気になる。  
 益山 子供が考えそうなのとか、勇者の冒険みたいな、でもちやんと文字だけで書いてたね。  
 トンチ 文字だけで書いてたや。子供のときって絵とかで書くやん。吹き出しとかで漫画みたいに。  
 益山 ちゃんと言葉で書いてたと思う。  
 トンチ すごいな。  
 益山 最後はなんか大魔王がゴキブリになって、それを勇者が踏んで終わりみたいな、そんな物語やったかな。  
 トンチ 面白そうやね、それ。  
 益山 そんな感じやった(笑)。で、中学校のときも、キャンブのときとかにあるクラスの寸劇みたいなものを仕切ってたやったりとか、自分で脚本まがいのものを書いてみたり、  
 トンチ じゃあもう小学校からそういうのはしてたんやね。  
 益山 友達と文化祭で映画撮ったりみたいなの。  
 トンチ そうなんや。早いね。  
 益山 そういうのやったりとかして。で、高校で演劇部に入ってた。そこから演劇っていうものがあねんなって、ちゃんと知って。  
 トンチ そうなんや。

トンチ ちゃつたけど。今回の作品は『オズの魔法使い』が作品の下敷きになってるところがある。  
 益山 あ、そうなん。  
 トンチ で、オーバー・ザ・レインボー、虹を超えて、で、『真夜中の虹』っていうイメージを作ってきた。まずもとは、高速道路にあるナトリウムランプ、こういう(街灯を指し)ランプやね、黄色いランプがいろんなものをセピア色に染めてしまっって色が抜け落ちたようになってしまっう。それが、高速道路が道にかかっているのが虹のように見えて、真夜中になると虹は色あせてしまっうっていうようなイメージで『真夜中の虹』っていうタイトルにしたのね。そこから、虹といえば『オズの魔法使い』でオーバー・ザ・レインボーというイメージがあったので。まあ今回はレインボーブリッジをオーバーしてみたいな(笑)。  
 トンチ 図らずもオーバーしてしまったね。  
 益山 そうそう(笑)。いつのまにか。  
 トンチ 『オーバー・ザ・レインボー』の曲はめちゃめちゃ好きやねん。  
 益山 いいよね。  
 トンチ うち引越したときにもめっちゃ聞いたよ、何回も。  
 『虹の回ひなせ...』  
 トンチ 見て、自由の女神あるわ。「安納芋やってます」もあるわ。これちゃうん。ほら、見て、めっちゃシニールやけど。  
 益山 すごいな。  
 トンチ ここちゃう？やばない？この辺ちゃうの？違う？ただうちが自由の女神に反応してるだけやねんけど。  
 益山 何であんの、こんなん。  
 トンチ いきなり出てきたんやけど、撮れといわんばかりにさ。  
 益山 これもやっぱりバブルの時代に作られたんかな。  
 トンチ でしょうね。

益山 これですか。  
 トンチ これですよね、多分。  
 益山 これがブリッジの入り口。  
 トンチ です。うち中1のとき実は演劇部やったよ。  
 益山 あ、そうなん。  
 トンチ 1年だけ。たこ焼きがその部活だけ食べれるから。  
 益山 (笑)。たこ焼き？  
 トンチ 浅はかな理由で。でもそこで腹式呼吸だけ習って。発声だけ習って。のちのち、めっちゃ生かされた。  
 益山 歌歌うときに。  
 トンチ うん。子供鉦人をうちが知ったの、お互い大阪っていうか関西やん。でも関西時代は交流がほとんどないやんか、共通の友達はあるけど。だから聞くけど、劇団子供鉦人を立ち上げるきつかけになったのがいつ頃とか、そういう初歩的なことは聞いても大丈夫？  
 益山 初め、高校の演劇部の部員やった子たちと一緒に、同級生たちと一緒に高校卒業してから劇団を作ったの。で、うわあ、すごい、これ、ごめん、このビル群何。新宿？(ちがいます)

益山 ビル群すごいね。ちよっと。  
 トンチ 六本木、これ(ちがいます)。すごいな。よくこんなものを作る気になったよな。この中の一つ一つに人が住んでたり、生活したり、仕事してるわけだしよ。  
 トンチ 橋差し掛かりますよ。レインボーブリッジにそろそろ、来た？来た？すごい。ユニバーサルスタジオジャパンの入り口みたい(笑)。  
 トンチ 入りますよ！  
 益山 ありがとうございませう。うわ、向こう岸すごい、本当にエメラルドシティみたいになってる『オズの魔法使い』の。何で東京来たん？いや、今このビル群を見て、東京やなあと思っつて。

トンチ うち？大阪むちゃむちゃ楽しかったんやんか。友達もすごい最高やし。むっちゃ楽しいし。関西でもライブもすごい楽しいし、みんな素晴らしいミュージシャンの人たちばかりやし、でもこんだけちゃんとした友達関係が築けるんやったら、どこに行っても仲いいんやろなって思った。東京に何のあてもなかつてんけど、すごい仲いいミュージシャンの友達がいる、引越しておいでよって言ってくれて、何かわからんけど行ってみようと思っつて、軽はずみに引越した。

『真夜中の虹』の世界とステイールパン

益山 調子乗ってんな。  
 トンチ やっぱ自由の女神しよってなつたんやろ。  
 益山 やっぱ引越して何がやっぱりなん(笑)。



おわり